

令和4年度 あべの翔学高等学校 学校評価

I めざす学校像

<p>1 人徳を経とし実務を緯とする</p> <p>人徳と実務を兼ね備え、将来、社会で貢献できる生徒を育成することを建学の精神とし、「立志、礼節、誠実、勤勉」を校訓とする。</p> <p>2 学力だけでなく「こころ」の面での成長を大切にし、生活指導面での厳しくもきめ細やかな指導をととして社会生活に適切に対応し、活躍できる教育活動を実践する。</p>

II 中期的目標

<p>1 学力向上</p> <p>ベネッセ総合学力テスト偏差値 50 を達成する。</p> <p>2 進路指導</p> <p>生徒・保護者の希望、本人の実力を勘案して、適切な進路指導を行う。</p> <p>3 生徒指導</p> <p>基本的な生活習慣の習得</p> <p>4 生徒会・クラブ活動への積極的参加</p> <p>生徒会、課外活動を通じ、勉学との両立を図りながら、秩序・リーダーシップ・協調性等のチームワークや人間関係の育成を図る。</p>

III 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価																																											
1 学 力 向 上	(1)基礎学力の向上	a 特進Ⅰ類、特進Ⅱ類の生徒を中心にベネッセ相応学力テストを受験し、各教科での偏差値向上、総合点での偏差値向上を目指す。	a ベネッセ総合学力テスト偏差値 50 の達成	令和4年度の総合点平均偏差値は「38.1」であり、令和3年度「35.5」に対して、2.6ポイントアップしている。																																											
				また、受験者数は少ないものの各教科の偏差値も40に近づいている。																																											
				引続き授業内容の充実と個別指導の徹底を行い、基礎学力の向上に努める。																																											
				【基礎力診断テスト偏差値】																																											
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>国語</th> <th>数学</th> <th>英語</th> <th>日本史B</th> <th>化学</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特進Ⅰ類</td> <td>39.2</td> <td>40.0</td> <td>45.1</td> <td>40.0</td> <td>40.6</td> </tr> <tr> <td>特進Ⅱ類</td> <td>39.9</td> <td>38.0</td> <td>40.6</td> <td>41.7</td> <td>40.6</td> </tr> <tr> <td>学年全体</td> <td>39.7</td> <td>38.6</td> <td>42.1</td> <td>41.5</td> <td>--</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>21</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>		国語	数学	英語	日本史B	化学	特進Ⅰ類	39.2	40.0	45.1	40.0	40.6	特進Ⅱ類	39.9	38.0	40.6	41.7	40.6	学年全体	39.7	38.6	42.1	41.5	--	受験者数	27	27	27	21	6													
					国語	数学	英語	日本史B	化学																																						
特進Ⅰ類	39.2	40.0	45.1	40.0	40.6																																										
特進Ⅱ類	39.9	38.0	40.6	41.7	40.6																																										
学年全体	39.7	38.6	42.1	41.5	--																																										
受験者数	27	27	27	21	6																																										
2 進 路 指 導	(1)進路指導対策の早期実施	a 進路希望調査の早期開始、早期対策	a 四年制大学進学率向上	令和4年度(令和5年3月卒業)の進路結果は左記のとおり。																																											
				令和4年度は関西学院大学への進学者1名(合格数4)、京都産業大学、甲南大学、龍谷大学への進学者2名(合格数11)など顕著な実績をあげることができた。																																											
				合格者の日頃の学習成果と教職員のサポートの賜物と思う。																																											
				<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="4">進学者</th> <th colspan="3">就職者他</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>大学</th> <th>短大</th> <th>専門</th> <th>小計</th> <th>就職</th> <th>その他</th> <th>小計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卒業生</td> <td>130</td> <td>12</td> <td>91</td> <td>233</td> <td>17</td> <td>24</td> <td>41</td> <td>274</td> </tr> <tr> <td>構成比(%)</td> <td>47</td> <td>4</td> <td>32</td> <td>83</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>前年度構成比</td> <td>40</td> <td>8</td> <td>32</td> <td>80</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>20</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>		進学者				就職者他			合計	大学	短大	専門	小計	就職	その他	小計	卒業生	130	12	91	233	17	24	41	274	構成比(%)	47	4	32	83	7	10	17	100	前年度構成比	40	8	32	80	11	9	20	100
						進学者				就職者他				合計																																	
大学	短大	専門	小計		就職	その他	小計																																								
卒業生	130	12	91	233	17	24	41	274																																							
構成比(%)	47	4	32	83	7	10	17	100																																							
前年度構成比	40	8	32	80	11	9	20	100																																							

3 生徒指導	(1) 基本的な生活指導の習得	a 遅刻指導強化期間の設定 b 服装、身嗜み指導の徹底	a 遅刻回数の削減に努める b 通学路立ち番指導 100%	(1) 遅刻回数の学年別・年次別回数は左記のとおりである。 学年にバラツキはあるが、学年が上がるにつれ遅刻回数が増加している。 (2) 学年別遅刻回数分布では、学年が上がるにつれて 11 回以上遅刻する生徒が年 10%相当増加している。 (3) これら 2 点の結果から、学校生活に慣れるに従って生活リズムが悪くなっていることに対して、学校生活の楽しみを見つけ出せるよう指導してゆく。			
	【学年別・年次別遅刻回数】		【学年別遅刻回数分析】				
	回/人年	1年次	2年次	3年次	%	1年生	2年生
3年生	8.3	8.3	12.2	0回	24	20	16
2年生	5.3	12.6	--	1回	12	6	11
1年生	7.4	--	--	2~5回	26	24	17
				6~10回	14	18	16
				11回超	24	32	40
				人数	237	208	277
4 生徒会・クラブ活動	(1) クラブ活動の活性化	a クラブ参加率の向上 b 市大会、府大会等での成績向上	a 軟式野球部、軽音楽部、吹奏楽部の大会成績向上	今年度、校庭を人工芝生化し、昼休み・放課後にコミュニケーションの場として活用すると共に、テニスコートを砂入人工芝コートにリニューアルしました。 今後の軟式テニス部、硬式テニス部の活躍が期待されます。 また、軟式野球部が全国大会で準優勝し、吹奏楽部も全国大会で優秀賞獲得するなど日頃の練習成果を発揮することが出来ました。 なお、主な大会成績等は左記のとおり。			
	【主なクラブ大会成績】						
	クラブ名	大会名	成績				
軟式野球部	全国高等学校軟式野球選手権 大阪大会		優勝				
	全国高等学校軟式野球選手権 全国大会		準優勝				
	栃木国体高等学校軟式野球		準決勝進出				
吹奏楽部	吹奏楽コンクール中地区大会		金賞				
	日本管楽合奏コンテスト全国大会		優秀賞				

IV 総合評価

評価	自己評価	次年度の改善方針
B	<p>今年度の 1 年生より iPad とプロジェクタ・電子黒板を使った授業を開始した。授業中に分からないこと、更に深く掘り下げたいことがあればすぐにインターネットで調べることができ、授業に対する対応が変わってきたと判断する。</p> <p>また、授業基礎力診断テスト結果で計ると、少しずつではあるが学力は向上していると感じている。</p> <p>一方、遅刻回数は一定数の生徒が頻繁に遅刻を重ねている状況であり、これらの生徒への個別指導が重要であると感じる。</p>	<p>1 人 1 台の iPad による学習環境は 2 年目を迎え、教師の教育内容の充実が求められる。教員間でコンテンツ、授業方法の情報共有を図り、より解りやすい授業を行ってゆく。</p> <p>生徒指導の面において、遅刻を減らしてゆくには、登校することの意欲、学校生活が楽しく感じる場を作ることが重要であると感ずる。あらゆる場面で生徒との対話を行い、魅力ある授業、課外活動にしてゆく。</p>

V 学校関係者評価

今年度の重点目標	学校関係者評価委員会意見	次年度の改善方策
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・受験者数の母数が少ない。 ・基礎は当然前提であるが、進学者にはより応用問題を多く、分かりやすく学ばせてあげて欲しい。 ・前年比+2.6 は、先生方の指導の成果だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績の開示。 ・静粛な環境作り。 ・選択肢や興味関心を増やし、寄り添ったコミュニケーションをお願いする。 ・1～3年生全員の学力を見て欲しい。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者の意識が高まるよう、大学資料配置場所の公開、フリースクール(保護者)の設定などがあると進学に繋がると思う。 ・引続き大学進学に向けて宜しく願います。 ・子供達が違和感を感じないような、自ら考え、行動できる導きをお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の講話。 ・個々の気質に合ったやり方、関わり方でご指導宜しくお願いする。 ・各種大学や専門学校の説明会、進路相談を継続実施宜しくお願いする。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・先生からの電話連絡により、日頃の悩みも相談できて有難かった。 ・遅刻が多すぎる。家庭での対応はもちろんですが、学校内の適切な指導が必要。 ・学校の校則には、今の世の中に必要ないものもあると思う。子供たちを信じ尊重し、寄り添える教育をして頂けることを望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝登校→時間短縮→早めの帰宅の設定日 ・生活リズムが悪くなっているということを対策するよりも、学校生活が楽しいものとなるような関わりや指導が必要である。 ・授業に集中できるような工夫が必要。 やる気を引き出し、登校することが楽しくなる学校運営をお願いする。 ・遅刻は信頼を失うことを学ばせる。
生徒会・クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が親身になり指導して頂けており、生徒へそれが伝わっていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラブに平等にスポットライトをあてる。 ・コロナ禍も落ち着いてきたので、生徒会活動の活性化に期待する。 ・他の部活も更なる活躍を期待している。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・進学者数の多さに驚いたが、何のためにその学びが必要なのか、逆算して考える体験を沢山させてあげて欲しい。 ・生徒は自分なりに自分に何が出来るか、その為に何をしたら最善なのかを考えるようになってきている。 ・1人1台iPad導入や制服リニューアルなど力を入れていて、より人気ある学校になっていると思う。 ・自分で考え、気づき、学び、成長してゆく。 いけないことばかりではなく、伸びしろいっぱい部分を褒めて伸ばしてあげて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校外でも特技・活動などで頑張っている生徒を広く周知し、公開し、活性化に繋げる。 ・心の成長も学校で学べるよう、先生方も今一度自らを知り、子ども達から学ぶことをシェアしながら楽しい現場作りをお願いする。 ・これからも進化し続けて欲しい。